１　「枕草子」清少納言 ─中古の随筆

19年度　白百合女子大学

★　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

　し舟とつけて、いみじう小さきに乗りて漕ぎありく。Ａつとめてなど、いとあはれなり。Ｂあとの白波は、まことにこそ消えもていけ。よろしき人は、なほ乗りてありく①まじき事とこそ　　Ｃ　　。もまたおそろしかなれど、それはいかにもいかにも地につきたれば、いと　　Ｄ　　。

　海はなほいと　　Ｅ　　と思ふ①に、まいて、のかづきし②に入るはうきわざなり。腰につきたるの、Ｆ絶えもし②なば、いかにせんとならん。Ｇ男だにせましかば、さてもありぬべきを、女はなほＨおぼろけの心なら③じ。舟に男は乗りて、歌などうちうたひて、こを海に浮けてありく。あやふく、１うしろめたくはあらぬ③にやあらんのぼらんとて、その縄をなん引くとか。Ｊ惑ひり入るるさまぞ、２ことわりなるや。Ｋ舟のをおさへてはなちたる息などこそ、まこと④にただ見る人だに３しほたるるに、落とし入れてただよひありく男は、目もあにあさましかし。

注　＊はし舟―はしけ舟。陸と停泊中の本船との間を往復して、貨物や旅客を運ぶのに用いる小舟。

　　＊栲縄―海女が海中に入る時の命綱などとして用いた縄。

問１　傍線部Ａ「つとめて」・Ｈ「おぼろけの心」の文中の意味として、もっとも適切なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

Ａ「つとめて」　　　　　　　Ｈ「おぼろけの心」

　①　早朝　　　　　　　　　　①　長年の自信

　②　心づかい　　　　　　　　②　明確な決意

　③　使用人　　　　　　　　　③　並一通りの覚悟

　④　夕暮れ　　　　　　　　　④　はっきりした自信

　⑤　海女　　　　　　　　　　⑤　ぼんやりした不安

問２　空欄Ｃに入る語として、もっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

　　①　おぼえよ　　②　おぼゆれ　　③　おぼゆる

　　④　おぼゆ　　　⑤　おぼえ

問３　傍線部Ｆ「絶えもしなば、いかにせんとならん」を現代語訳せよ。

　　［

］

問４　傍線部Ｇ「男だにせましかば、さてもありぬべきを」を、「せ」の内容を明らかにしながら、現代語訳せよ。

　　［

］

◎問５　傍線部Ｂ「あとの白波は、まことにこそ消えもていけ」の背景には、「世の中を何にたとへん朝ぼらけ漕ぎ行く舟の跡の白波」という古歌が存在している。そのことを踏まえて傍線部Ｂを現代語訳した場合、もっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　古歌に言うのと違い、舟の航跡よ、消えてしまっておくれ

②　古歌に言うのと違い、舟の航跡は実際には消えてゆき

③　古歌に言うように、舟の航跡よ、浮かび上がっておくれ

④　古歌に言うように、舟の航跡はどこまでも追って来て

⑤　古歌に言うように、舟の航跡はすぐに消えてしまい

問６　空欄Ｄ・Ｅに入る語の組み合わせとして、前後の文脈から考えてもっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

　　①　Ｄ　やすし　　Ｅ　はやし　　②　Ｄ　ゆゆし　　　Ｅ　たのもし

　　③　Ｄ　はやし　　Ｅ　おそし　　④　Ｄ　たのもし　　Ｅ　ゆゆし

　　⑤　Ｄ　おそし　　Ｅ　はやし

問７　傍線部Ｉ・Ｊ・Ｋの動作の主体の組み合わせとして、もっとも適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

　　①　Ｉ　女　　Ｊ　女　　Ｋ　女　　②　Ｉ　男　　Ｊ　男　　Ｋ　男

　　③　Ｉ　女　　Ｊ　男　　Ｋ　女　　④　Ｉ　男　　Ｊ　女　　Ｋ　男

　　⑤　Ｉ　男　　Ｊ　男　　Ｋ　女

問８　二重傍線部「いみじう小さきに」と、文法上の性質が同じものを、二重傍線部①～⑤のうちから一つ選べ。

　　〔　　　　　〕

【確認問題】

１　傍線部１～３の語句の意味として適当なものを、それぞれ次から選べ。

　１　うしろめたく

　　ア　心配で　　　　　イ　気がとがめる

　　ウ　じれったく　　　エ　気がひかれる

　２　ことわりなる

　　ア　残念だ　　　　　　イ　申し訳ない

　　ウ　やめてしまいたい　エ　もっともだ

　３　しほたるる

　　ア　冷や汗が出る　　イ　涙がこぼれる

　　ウ　しょんぼりする　エ　恐ろしくなる

２　□①～③の助動詞の文法的意味として適当なものを、それぞれ次から選べ。

　ア　過去　　　　イ　完了　　ウ　存続

　エ　推量　　　　オ　意志　　カ　不適当

　キ　打消推量　　ク　打消意志

1. 〔　　　〕　②〔　　　〕　③〔　　　〕

【補充問題】

３　波線部「目も…」とあるが、男のどんな様子に対しての筆者の感想か。説明せよ。

［

　］

【解答】

問１　Ａ＝①　Ｈ＝③

問２　②

問３　Ａもし切れでもしてしまったらＢどうしようというのだろう

評価の基準　Ａ＝５〔「もし～たら」と仮定の形になっていること３。紐が「切れる」の訳出２。〕

　　　　　　Ｂ＝５〔「どうするのだろう」など、二つの「ん」を訳出できていない場合は３。「と」を欠く場合は３。〕

問４　Ａせめて男が海に潜るならば、Ｂそれでもよかろうが

評価の基準　Ａ＝５〔「男が海に潜るだけなら」なども可。「男が海に潜るのなら」など、類推・最小限の限定の訳出がないものは３。「男だけでも海に潜ると」など、仮定の意味に訳せていない場合は３。「せめて男がするならば」と、「潜る」内容に触れていない場合は３。〕

　　　　　　Ｂ＝５〔「差し障りもないだろうが」など、同様の内容であればよい。逆接の「を」を訳出できていない場合は３。〕

問５　⑤

問６　④

問７　③

問８　②

【確認問題】

１　１＝ア　２＝エ　３＝イ

２　①＝カ　②＝イ　③＝キ

【補充問題】

３　海女を、命綱一本をつけただけで恐ろしい海中に落とし、自分は舟を操りながら待っている様子。

【現代語訳】

　はしけ舟と（名）づけて、たいそう小さい（舟）に乗って漕いでまわる。早朝（の様子）など（は）、たいそうしみじみとした感じがする。（古歌に言うように、舟の）航跡はすぐに消えてしまい（長く残らない）。まずまずの身分の人は、やはり（舟に）乗って動きまわるのはふさわしくないことだと思われる。徒歩で行く旅もまた恐ろしいようだが、それはどうでもこうでも（足が）地に着いているので、たいそう心強い。

　海はやはりたいそう気味が悪いと思うのに、まして、海女が潜水をしに（海に）入る（の）は（見るのも）つらいことだ。腰についている紐が、もし切れでもしてしまったら、どうしようというのだろう。せめて男が海に潜るならば、それでもよかろうが、女はやはり並一通りの覚悟ではないだろう。舟に男は乗って、歌などを（のんきそうに）歌って、この栲縄を海に浮かべて行き来する。（女のことが）気がかりで、心配ではないのだろうか。（女が海面に）浮かび上がろうとして、その縄を引くとかいう（ことだ）。（そのとき男が）あわてて（縄を）たぐりよせる様子は、もっともだよ。（女が）舟の縁をおさえて吐いている息などは、本当にただ見る人でさえ涙がこぼれる（ほどつらそうである）のに、（そんな女を海に）落とし入れて（海の上を）ふらふら動いてまわる男（の様子）は、見ていられないほどにあきれてしまうことだよ。